

NEWS Letter



吉村美栄子山形県知事による特別講義

～基盤教育「ウーマン・オブ・ヤマガタ」公開教養セミナー～

山形大学では、多方面で活躍する学内外の女性をゲストに招き、その経験に基づいた講義と対話を通して、男女共同参画や仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)を保った働き方ができる社会を考える「ウーマン・オブ・ヤマガタ」という授業を実施しています。主に1年生を対象とする基盤教育の中の授業で、男女共同参画推進室に所属する教員が担当しています。

5月17日、吉村美栄子山形県知事をゲストに招いての公開特別講義では、学生約200名と教職員・一般の方を合わせて約300名が聴講しました。

吉村氏は、46歳で夫に先立たれた後に、20年間の専業主婦から行政書士を目指して2年後に開業、57歳で県知事に立候補して平成21年に東北初の女性知事として就任されました。



知事と参加者との対話の様子

知事は、まず初めに東日本大震災にふれ、1000年に1度といわれる大災害で数万人の人を亡くしたこの時、「生きていること」への根源的な問いをもってほしいと語り、次に、大江町で育った幼い頃から57歳で知事に立候補するまでの歩みを紹介しました。そして、人生に無駄はななくいくつになっても遅くない、希望と可能性を失わないでください、と述べました。



吉村 美栄子山形県知事

講義の後は、学生の司会進行で知事と参加者との対話が行われ、学生から、「大震災を受けて、県の発展計画の修正は考えられているか」、「男女共同参画は、男性の側からはどのように受け取られているか」、「女性管理職を増やすためにどうしているか」、一般参加者から、「制度はあっても父親はなかなか育児休業がとれず育児に参加できない。子育てしやすい山形県を」というような質問や意見が出され、知事から丁寧な回答がありました。

この講義の様子は、当日のテレビニュースでも紹介され、「刺激を受けた」「女性として生き方がかっこいい」と感想を述べる学生の様子も放送されました。

第3回男女共同参画フェスタ開催中

インフォメーションセンター・小白川図書館

6月21日(火)～
7月19日(火)

男女共同参画社会基本法が成立した日(1999年6月23日)を起点とした1週間を毎年、男女共同参画週間とし、基本法の目的及び基本理念に関する国民の理解を深める機会とされてきました。今年度、内閣府では、「ポジティブ・アクション」(積極的改善措置)の理解を求め、取組を促すためのキャッチフレーズとして「チャンスを分かち、未来を拓こう」を採用しています。

本学もこの週間に合わせ、男女共同参画フェスタを開催しています。

① パネル展(インフォメーションセンター): 山形大学ワークライフバランスの取組紹介

「女性差別撤廃条約」の紹介

② 図書の紹介(小白川図書館): 「生き方」「コミュニケーション」「セクシャリティ」

「男女共同参画」をテーマとした200冊の書籍

(国立女性教育会館所蔵図書)を含めた関連図書の紹介

③ 特別講座「上手な自己表現セミナー」の開催(事務局棟第1会議室):

6月30日(木) 15:00～17:00、医・工・農はテレビ配信あり

この機会に多くの皆様のご参加、ご利用をいただき、性別にかかわらず個性と能力を発揮できる大学作りを推進するため、意見交換の機会となることを願っています。

平成23年度男女共同参画推進の新委員・新室員の紹介

男女共同参画推進委員会の新委員

前任者の任期終了や異動により4月1日より新たに委員として選出された方々です。

- 人文学部 赤倉 泉委員
- 農学部 阿部利徳委員
- 理学部 天羽優子委員
- 農学部 森 静香委員
- 医学部 小林淳子委員
- 企画部長 佐竹正行委員

男女共同参画推進室の新室員

前任者の転出・異動により、新たに室員となった方々です。

- 深尾 彰 理事(研究・評価担当)
- 中村 修一 労務課長
- 江藤 直行 渉外部准教授
- 高野佐知子 労務課専門員

5月24日(火)に新委員を加えた第7回男女共同参画推進委員会が開催されました。

第2回アドバイザーボードの結果

3月7日(月)

3人の学外有識者から次のアドバイスをいただきました。

評価できる点

- 基本計画の策定と具体的内容が適切である。
- 前回のアドバイザーボードから多くの具体的な活動を進めている。
- 予算を最大限に有効活用している。学長が先頭に立ち、推進室の室員が情熱を持ち推進しているのがよく見える。
- ランチミーティングは良い取り組みだ。横の連携を作ることが必要である。
- ニュースレターは写真が多くなり改善された。

今後期待する点

- ★全学の推進体制が作られたが、各部局でいかに具現化していくかが課題だ。
- ★地域として男女共同参画推進に取り組む必要がある。大学間のネットワーク作りにより山形大学が果たす役割は大きい。
- ★環境の整備を実感できる機会を作る。制度をクリアに伝えることが必要だ。
- ★JST事業終了後の継続が課題だ。あらゆる手段を使い予算の手当をすることが必要だ。



ボードメンバー：左から元村有希子氏(毎日新聞科学環境部副部長)、赤塚孝雄氏(山形県立産業技術短期大学校長)、伊藤真知子氏(東北公益文科大学教授)

第5回女性研究者交流会-Lunch Meeting- 米沢キャンパスで開催

5月27日(金)



新緑の美しい米沢キャンパスで、初めての交流会を開催し7名が参加しました。工学部・理学部・地域教育文化学部からの参加があり、学部を越えた交流ができました。

男性の大学院進学に比べ、女性の進学が少ないという話題の中で、「優秀な女子学生に是非にと勧めたがダメだった。保護者の反対もあるようだ。」という話が出されました。「私は反対もなく博士課程に進めたのは幸せだった。今は、女性研究者の支援員としてスイスで働いている。任期付きなので、不安もあります。」という話を伺うことができました。



研究継続支援員制度を利用しています。

「現在、5歳と8歳の子の育児中です。」



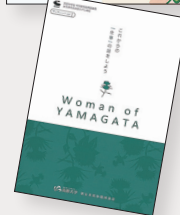
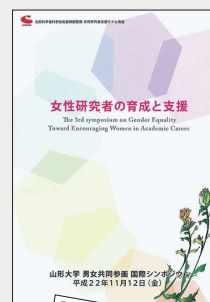
赤倉 泉准教授 人文学部法経政策学科

中国での10年以上の滞在経験をきっかけに、中国政治を研究しています。日本でも注目されている中国の民主化運動について、1950年代の自由化運動に遡って分析しようと考え、データ収集を始めました。現在、保育園児と小学生の子がいるため、大学にいる時間を効率的に使

平成22年度刊行物紹介

男女共同参画推進室の「平成22年度報告書」第1部と第2部「男女共同参画に係るアンケート結果報告書」に加え、新たに昨年11月に行われた国際シンポジウムの講演記録集『女性研究者の育成と支援』(DVD付き)と基盤教育「ウーマン・オブ・ヤマガタ」講義記録ブックレット vol.1を刊行しました。

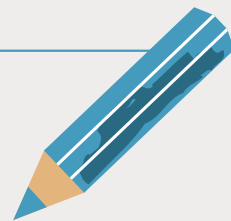
刊行物は、学内での授業やセミナー等で活用すると共に、県内の高等学校、図書館、県や市の男女共同参画センター等にも広く配布しています。広くご利用ください。



わなければなりません。研究につきものの基礎的な作業は、一人ではかなりの時間が取られますが、育児期の女性研究者支援として支援員制度を利用することができることになり、とても助かりました。英語、日本語、中国語の数万件のデータを作成し、すぐにアクセスできる状態にしてくれるなど、支援員の学生が予想以上の働きをしてくれました。

3年間の科研費の申請も採択されましたので、これらのデータをもとに本格的に研究に取りかかることができることを感謝しています。





第3回 平成22年度男女共同参画に係るアンケート調査結果

(平成22年10月～11月実施)

過去2年度に引き続き、本学の男女共同参画に係る実態と意識を捉えるために、昨年10月から11月にかけてアンケート調査を実施しました。今回は全ての常勤教職員と定時・短時間勤務職員に加え、大学院生にも回答をお願いしました。結果として1,862人(女性844人・男性929人)の方(回収率48.2%)にご協力いただき、大変感謝しております。

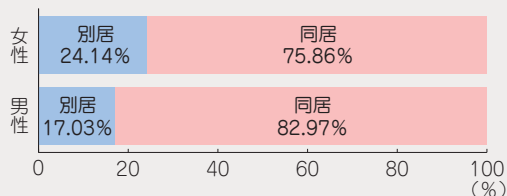
結果は、『平成22年度報告書第2部男女共同参画に係るアン

ケート結果報告書』にまとめ、男女共同参画推進室のホームページにpdfファイルをアップしておりますので、ぜひご覧ください。8ページにわたる調査表でしたが、ここでは配偶者等との同別居、家事・育児の男女差、仕事上のストレスや働く環境への意識についてご紹介します。なお、経年変化を捉えるために本年度も7月頃にアンケートを実施いたしますので、どうぞご協力をよろしくお願いいたします。

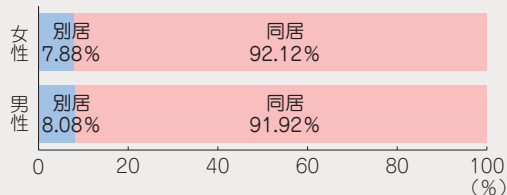
❁ 配偶者等(配偶者・パートナー)との同別居

配偶者等がいる人のうち、大学教員(特に女性教員)では、他の職種や男性に比べ、別居が多いことが分かりました。この傾向は山形大学に限ったことではなく、他大学の調査でも同じ傾向があります(報告書第2部 30-31ページ参照)。

配偶者等との同別居(大学教員)



配偶者等との同別居(職員・医療系職員)

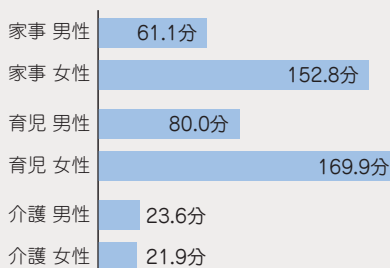


❁ 家事・育児について

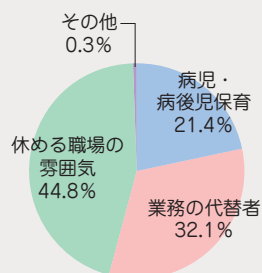
夫婦とも常勤で働いているカップルでも、家事や育児を担う時間は、女性が男性の2倍以上です。育児は、男性の場合は配偶者(妻)が主な担い手である場合が大半を占めていますが、女性の場合は、保育所・幼稚園・学童保育を利用し、祖父母が補完している場合が多いようです(報告書第2部 35-39ページ参照)。

「子どもが病気の時に必要なサポート」は、業務の代替者や病児・病後児保育などシステム面の整備と共に、「育児を理由に休める職場の雰囲気」が必要と考えられています(44.8%) (報告書第2部 42ページ参照)。

常勤カップル 家事等の平均時間(平日)



子どもが病気の時に必要なサポート



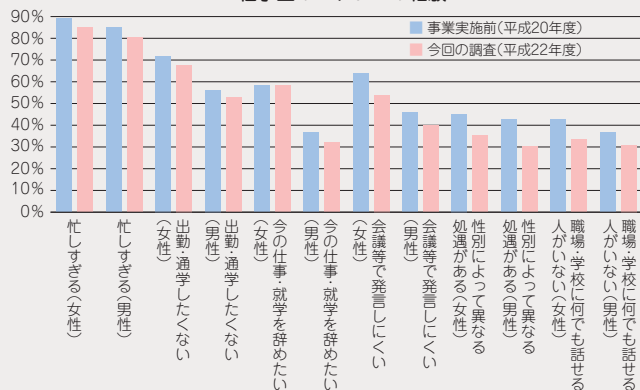
❁ 仕事上のストレスや働く環境への意識(経年変化)

事業実施前の平成20年度調査(調査対象者は今回と同じ全教職員と大学院生)と今回の結果を比べると、仕事上のストレスを感じる人の割合(「よくある」「ときどきある」の合計)では、「会議等で発言しにくい」(女性)や、「性別によって異なる処遇がある」(男女)が減るなど、改善傾向が見られました(報告書第2部 46ページ参照)。

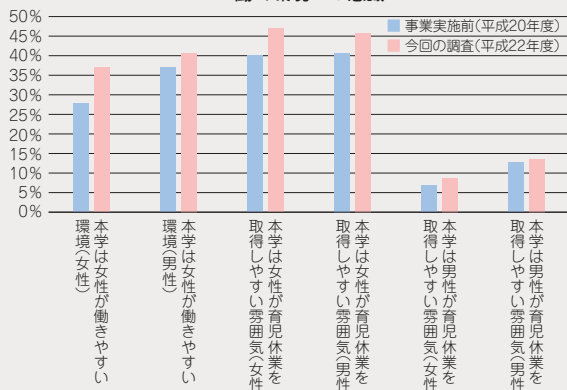
また働く環境への意識(「そう思う」「まあそう思う」という人の合計)では、「本学は女性が働きやすい環境が整っている」と、「本学は女性が育児休業を取得しやすい雰囲気」と感じる

人の割合が、着実に増加するなど改善傾向が見られました。ただし、「本学は男性が育児休業を取得しやすい雰囲気」と感じる人は、若干増加しても、男女とも1割程度でした(報告書第2部 55ページ参照)。昨年度、本学から男性の育児休業取得第1号が出ました。制度があっても、その制度が知られていなければ、また利用したい時に利用できる雰囲気が無ければ、制度を整える意味がありません。室を中心に、今後さらに男女ともに働きやすい環境を整えていきたいと考えています。

仕事上のストレスの経験



働く環境への意識



佐藤 幸子 先生

山形大学医学部看護学科臨床看護学教授



◎ 研究者への歩みを教えてください。

これまでに職場を8カ所変わりました。選択の繰り返しだったと思います。

看護師になろうと思ったのは、中学生の時、初めて1人で医者に行き、看護師さんの一言で気持ちが楽になったことが印象深かったからです。高校2年生の時、国立の4年制の看護大学ができるのでどうだという先生の勧めもあり、専門学校ではなく大学を選びました。それが今の仕事につながっていると思います。

大学卒業の頃、先生から東京女子医大で学ぶように勧められましたが、地元の山形に帰ることを選び、山形大学医学部の看護師となりました。大学出身は私1人だったので技術面で負けないよう猛練習しました。しかし2年位経った頃、これでいいのか悩むようになり、大学の恩師から助手をしながら勉強しないかと勧められた時、すぐに決心しました。「看護とは何か」を真剣に考え、自分のやってきたことに意味を見つめることができた時、ようやく元気が出ました。28歳でした。博士を取ることを勧められましたが、山形に戻って県の保健師となり結婚しました。子どもを産んで初めて、男女が平等ではないこと、例えば、育児休業を取るのにはやはり女性の方です、取れば給料も昇給もない、ということがわかりました。異動で県立看護短大の教員になりましたが、これまで実践ばかりだったので、仙台に通っ

て学び、博士を取得して現在に至っています。発達心理学を学び、子どもの心のケアを研究しています。

◎ 大切にされていることは何ですか？

看護ばかりでなく、広がりのある人間関係、多くの人とのふれあい、家族の近くにいる生活、家族の不自由さを少なくすることを大事にしました。現在、4世代家族で、曾祖母の介護もしています。確かに負担感もありますが、仕事も生活も夫や娘がいることが原動力になっていると思います。

虐待で心が傷つき色々な問題行動を示す子どもがいます。虐待を予防するため、お母さん方の話を聞きながら、心のケアを続けていきたいと考えています。

Information

6月1日より「託児サポーター制度」再開

6月1日より小白川キャンパスの託児サポーター制度を再開しました。補助金の制度変更により、今年度は学内経費で実施しています。ご利用の詳細は、ホームページあるいは、「託児サポーターご利用のしおり」をご覧ください。

託児サポーター養成講座の受講生を募集します！（対象：学生）

山大託児サポーターとして活動するには、この養成講座（講義21.5時間+実習5時間）を受講する必要があります。



昨年の実習風景

● 説明会：7月13日(水) 16:30～17:00
基盤教育1号館123教室

● 講義内容：9月22日(木) 子育てを取り巻く環境
9月26日(月) 子どもの遊び・心の発達
9月27日(火) 栄養と食生活・子どもの世話
9月29日(木) 安全や事故・小児看護の基礎知識
9月28日(水) もしくは10月1日(土)
育児サークルランドでの実習
基盤教育1号館123教室

Information

科研費の「基金化」により研究費がより使い易くなります。

科研費は、平成23年度から学術研究助成基金を日本学術振興会に創設し、基盤研究(C)等の一部研究種目の新規採択分から「基金化」が図られ、複数年度にわたる研究費の使用が可能になりました。このことにより、研究費の前倒し使用や事前の手続きなく研究費を次年度に使用すること、年度をまたぐ物品の調達が可能になります。さらには年度の区切りを

気にせず、育児休業等による研究の中断や研究期間の延長も可能となるなど、大幅な制度改善が図られており、研究費のより効果的・効率的な使用が可能となります。

詳しくは、日本学術振興会の科研費ホームページをご覧ください。
<http://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/index.html>

Information

「女性研究者支援 博士・ポスドクのためのキャリア・セミナー」を開催します。

山形大学工学部 4-213号室 14:00～17:00

7月4日(月)

3月14日(月) 予定していた工学部でのキャリア・セミナーが大震災のため延期となりました。この度、参加予定だった方々との日程調整も行い、再度、実施することとなりましたので、多くの皆様のご参加をお待ちしています。

Information

応用物理学会主催「博士のキャリア相談会」と人財育成ミーティング「若手・女性研究者のネットワーク構築 一事例から実践へ」が小白川キャンパスで開催されます。

8月31日(水)

応用物理学会 人財育成・教育事業委員会の主催で、学生・ポスドク対象の「博士のキャリア相談会」が、8月31日(11:30～16:00)開催されます。また、引き続き16:30からは、人財育成ミーティングが開催されます。学生・ポスドクの方々のご参加をお願いします。

編集後記/隣県大学として大震災被災地支援を行っていますが、男女共同参画推進室からも室員が参加しました。床下や側溝の泥かき、緑のカーテン設置が主な作業でしたが、これから息の長い支援の継続が必要であることが実感されました。2011年6月



山形大学男女共同参画推進室

〒990-8560 山形市小白川町一丁目4-12 TEL 023-628-4937、4938、4939
E-mail danjo@jm.kj.yamagata-u.ac.jp
<http://www.yamagata-u.ac.jp/kenkyu/danjo/>